

研修名	自殺未遂者支援者研修（高齢者編）「高齢者の自殺未遂者に関わるか」
講師	福岡大学医学部 精神医学教室 衛藤 暢明 医師
開催日時	令和7年11月14日（金） <基礎編> 13:00～15:00 講義 ～自殺の危険からみた自殺予防の基礎～ <実践編> 15:15～17:15 事例紹介 ～自殺の危険の評価と対応・連携の実践～
会場	総合保健福祉センター 2階 講堂
参加者数	基礎編：18名／実践編：12名 ＊職種内訳：介護支援専門員、相談支援員、警察官、医師、保健師、社会福祉士、心理職等
研修の内容等	長年、医師として自殺未遂者支援に従事されている衛藤暢明先生にご講義いただきました。基礎編では、自殺予防に関する基礎知識を学び、実践編では、事例を通して参加者との質疑応答や意見交換を通して、今後の業務に活かせる知識を得ることが出来ました。 早期に医療に繋ぐための「精神科紹介時のスクリーニング・シート」や自殺の危険に関する評価のための「SAD PERSONS スケール」は、適切で客観的な情報共有ができることから、支援者が安心して支援できるツールとも言えるのではないのでしょうか。 苦しさを抱える人々の背景に目を向け、自殺企図のリスクを過小評価しないことの大切さを学びました。 （北九州市立精神保健福祉センター職員より）
参加者の声	「たくさんの感想をいただきありがとうございました！ 一部をご紹介します。」 ・高齢者の希死念慮への対応にやや疲れることがあったが、研修を受けてもう少し向き合おうという気持ちになった。 ・自殺願望のある人と会話することが怖くなくなった。 ・一時的に自殺企図者と関わることがある。他機関に繋ぐ際に重大性が伝わらない時があったので、スクリーニング・シートを活用するとよいことがわかった。 ・各項目で実際の状況をもとに掘り下げてお話しいただいたことで、実務に活かすイメージが持ちやすかった。 ・基礎編で習ったことを身につける良い機会になったので、実践編も受けて良かった。 ・講義内容の全てが実践に活かせると思った。 ・スクリーニング・シートを用いて事例検討することで全体像や介入のポイントが絞れるようになった。 ・自殺未遂者や希死念慮を持つ人にかかわる状況があるので、対応する時は SAD PERSONS スケールなどを用いて、適切に医療と連携できるようになりたい。 ・事例を通して SAD PERSONS スケールをつけてみて、何をわかっていて、何をわかっていないのかが少しクリアになり、活用の仕方もイメージできた。